

「高齢化が進む日本農業に対し、 私達が今できること。」



翠星イメージキャラクター

すいぼん

クラブ員代表者会議 北信越ブロック連盟 石川県立翠星高等学校

総合グリーン科学科 2年 瀬川 汐栞

総合グリーン科学科 2年 村上 亜瑚

総合グリーン科学科 2年 下出 克哉

1 はじめに

(1) 石川県の農業

石川県では、古くから加賀野菜・能登野菜などを含む地域特有の農産物の栽培や、豊富な海の幸を利用した漁業などが行われ、豊かな風土を礎とした一次産業がさかんです。また、染め物や漆器などの伝統工芸や伝統文化など、有形無形の資源も多く存在しており、それらの資源が融合した食文化が県民の生活から生まれ、その流れを今日の石川の食品産業が受け継いでいます。また、日本有数の砂浜海岸である千里浜や霊峰白山が作り出す景観、加賀百万石の風情が残る金沢の街並みなども貴重な地域資源となっています。

それでは、石川県の多様な産業について地域ごとに紹介します。石川県は、加賀地方と能登地方とで特徴が大きく異なっています。県南部の加賀地方では、平坦部は稲作が盛んで農業法人や大規模経営農家の割合が比較的高くなっています。また、金沢市の海岸沿いの砂丘地帯では、スイカやダイコンなどの野菜生産が盛んで、山間部はナシやリンゴなどの果樹生産が盛んです。県北部の能登地方は、里山里海を利用した農林水産業と観光が主力産業となっており、どの地域でも一次産業の振興が地域の浮沈の鍵を握っているのです。

豊かな風土を生かして農業を行ってきた石川県ですが、稲作を中心とする兼業農家が多く、なかでも第2種兼業農家率が約70%となっています。近年、農業者の高齢化や新規就農者の減少も深刻化し、せっかくの特色ある食材を地域の活性化に活かし切れていないという現実があります。さらに、農産物価格の低迷や資材価格の高騰を受けて、近年は農業経営が厳しい状況にあり、6次産業化や大規模化した経営の次世代継承も大きな課題となっています。

石川県は、2015年の北陸新幹線の金沢東京間開業以来、観光業やビジネス業など多くの分野が活性化しました。今後、北陸新幹線の金沢以西延伸や能越自動車道の全線開通、のと里山空港の機能強化により、大都市圏との交流や産業・観光業のさらなる発展が見込まれます。東京オリンピックも控える中、「食の安全・安心」や「地産地消」を求める地域の声に応じていくためにも、農業従事者の人口を拡大して、各地域が有する資源を十分活用した地域に根付く農業への進化が求められるのです。

(2) 北信越ブロック連盟と石川県連盟について

北信越ブロック連盟は新潟県9校、長野県11校、富山県5校、石川県4校、福井県3校の5県32校からなるブロックです。石川県連盟は翠星高等学校、津幡高等学校、七尾東雲高等学校、能登高等学校の計4校で構成されています。

(4) 翠星高校の紹介

私たちの翠星高等学校は明治9年に創立され、今年で142年目を迎える、日本で最も古い歴史と伝統を誇る農業高校です。校地面積約11万㎡、農場面積は約5万4千㎡もある大きな学校です。校名も、石川県勸業所、石川県農学校、松任農学校、松任農業高校、と変わり、平成12年に「翠星高校」へと改称されました。翠星高校は、全国初の単位制農業高校として、時代に合わせた学習システムを取り入れています。翠星高校は、総合グリーン科学科という一つの学科に、3つのコースと6つの分野を設置し、それぞれの専門学習を行っています。入学後に、自分の学びたい専門分野を選択できることや、農業各専門分野の知識・技術の習得「ものづくり学習」が魅力的でおもしろいという点があります。翠星高校は、「食」と「農」と「環境」をテーマに、「心豊かな人間の育成」と「専門的な知識や技術の習得」を目指しています。



2 本校での活動事例

私たちは、高齢化による農業従事者の減少から日本の農業を救うには、三つの目標をもって行動していくことが重要だと考えました。第一に、翠星高校を卒業して農業に関する分野に就職する生徒を増やすことです。農業高校生である私たちが就農することで、若者の農離れを少しは食い止めることができるのではないかと考えたからです。第二に、地域の人たちと交流することです。農業は日々進歩しているので、新たに身につけた知識や技術を、近隣の農家に伝えることはとても重要です。また、自分たちだけでは解決できない問題について相談することで農業の改善や学習の深化に努めることもできます。最後に、地域の子どもたちに農業の魅力伝えることです。子どもたちに農業の楽しさを伝え、将来農業に携わる人を増やすという意味があります。

これらの三つの目標を達成するために、翠星高校で実際に行っている取り組みとその成果について紹介します。

実践① 現場見学や講演会の充実

翠星高校の1年生は、「農業と環境」を全員履修しており、この授業で様々な作物の生態や栽培管理、農業と環境のつながりについて学んでいます。しかし、実際のところ農業とはどのような職業で、石川県ではどのように農業が行われているのか詳しくは知らないのが現状です。そこで、農業に興味をもち、就農について少しでもイメージが湧くように、見学実習や講演会が多く取り入れるよう

本校での活動事例

高齢化による**農業従事者の減少**から
日本の農業を救うために



にしています。1年生が履修する学校設定科目「産業探究」では金沢市農業センターの見学をしたり、J A、農家、造園業に関する様々な講演会を聴講したりしました。また、2・3年生になると、自分の選択したコース・分野で授業を受け、専門的な実習や実験を行います。その実習に合わせて近隣の農家や企業に見学に行くこともあります。



農業という職業について具体的なイメージがわいた。
進路決定の材料の一つになった。

実践② 産業連携による人材育成推進事業

同じく、翠星高校生の就農者を増やすための取り組みの中に、「産業連携による人材育成推進事業」があります。就農に興味のある生徒を対象に、長期の企業実習を行っています。2年生の時に全員が行うインターンシップとは異なり、10日間と長い期間の実習は、就職してからのイメージがつかめるという利点もあります。また、企業や地域の農家の方を講師として学校にお招きし、翠星高校で授業をしてもらうこともあります。昨年度は、石川農林総合事務所の方に水稻の幼穂観察や病虫害防除の方法について教えてもらいました。他にも、金沢市のメロン農家である荒川さんからはメロン栽培に関する技術指導や現場見学を通じた新品種の説明してもらい、菓子工房 西都 KOGURA さんには洋菓子製造の方法を覚えてもらうなど、普段の学校生活では学ぶことのできないような、専門的な授業を受けることができました。



長期間実習をすることによって実際に働くということにイメージが湧いた。
農業を職業としている人と関わり、農業の必要性やりがいを学べた。

実践③ 小学生との交流

翠星高校では、毎年地域の小学生を対象とした「親子体験講座」を開催しています。今年度の講座内容は以下の通りです。今年度は昨年より講座数を増やし、農業に関する幅広い分野を小学生に伝えることができました。

第1回：夏野菜の収穫体験、第2回：バイオテクノロジー実験の体験
第3回：こけ玉づくり、第4回：クッキーづくり

また、生物資源コースでは、生徒が小学生に農作業を教える機会を年に数回設けています。他にも、「田んぼの学校」や「食育活動」など様々な行事も行っており、農業の楽しさや大切さを小学生に伝える活動をたくさんしています。



農業は楽しいというイメージを伝えられた。
小学生に教えることで自分の知識がより深まった。

実践④ GLOBAL G.A.Pの取得

G A P (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのことを言います。昨年度、翠星G A P隊を設立し、GLOBAL G.A.P (以降G.G A P) 取得に向けて活動を開始しました。G A Pの取得には、安心安全な農作



翠星高校生が主体となって
GAPを取得することで

さらに 栽培環境が改善する

- ・生徒自身の農業に関する知識が深まる。
- ・生徒自身がリスクマネジメントの必要性に気付くことができる。
- ・GAP取得のノウハウを地域の農家の方々に伝えることができる。

物の栽培や収量の増加、作業環境の改善など様々な利点があります。また、私たち翠星高校生が主体となって取得のために行動することで農業に関する知識を深めることはもちろんリスクマネジメントの必要性に気づくことができたり、GAP取得のノウハウを地域の農家の方々に伝えたりすることができるようになります。今年度は「水稻」での取得を目標としており、石川県で初めてG・GAPを取得した安井ファームの方に指導・助言を受け、水稻の栽培環境と倉庫の整備状況の改善に取り組んでいます。



農業やリスクマネジメントについて理解し、自分たちで考えて行動する力が身についた。GAP取得のノウハウを伝えられるようになった。

実践⑤ 農業クラブ活動

翠星高校では、プロジェクト活動にも力を入れています。なぜならプロジェクト活動では、自分たちで考え、行動することで農業に対する知識や興味がさらに深まるからです。地域の農家や企業と連携することも多く、生産物の活性化につながると考えられます。食品科学研究会では「金沢ゆず」を用いて様々な食品加工を行っており、昨年度の日本学校農業クラブ岡山大会でⅡ類最優秀賞を受賞しました。他にも、「剣崎なんば」の栽培を通して地域と交流を行っている班やササユリやシュンランの保護活動を行っている班もあります。農業クラブでは、産・学・官・民と連携し、地域に根付いた活動を行っていく必要があります。



地域の方々との交流を通して、知識の深化や地域の活性化に協力できた。

3 まとめ

- ・ 講演会や現場見学、実習を通して、翠星高校生の就農に関する興味が深まった。
- ・ 地域の小学生を対象にした活動によって、農業の楽しさや必要性について伝え、翠星高校をアピールする、将来の農業の担い手を募集することができた。
- ・ 地域の農家や企業と交流し、地域の農産物を盛り上げることができた。

4 最後に

現在翠星高校で行っているさまざまな活動によって、少しずつ地域の農業を盛り上げていくことができました。しかし、高齢化は進む一方なので、これらの活動をこれからも続け、更に拡大していく必要があります。また、日々進化し続けている農業の知識を一早く取り入れ実行し、地域に広く普及することも求められるので、常に学び続ける気持ちを持ち、柔軟に対応する力をつけていく必要があると考えます。